



莫は、で、草原の草の中に日が沈んだところを表わしたもので、“夕ぐれ”が本義です。日が隠れて見えないので“ない”の意味にも使われます。音は、が草

の茂しげっている形を表わしているので「茂ボ」です。転じてバクセキバクの音があります。寂莫。

「莫大」は、草原の“果てしなくひろい”意味を取って“とてつもなく大きい”という意味のことばです。

寞は、家(宀)の中に人がいないので“ひっそりと静まりかえっている”こと。“さびしい”の意味もあります。寂寞。

暮は、莫が“夕ぐれ”の本義を失なったので、莫にさらに日日を付けて“夕ぐれ”専用の字としたものです。「歳暮」(年のくれ)という使い方もあります。

墓は、人生のくれ、終着所の土、つまり“おほか”です。墓地。墓穴(を掘る)。墓表。墓碑。

慕は、“夕ぐれの心()”という意味の字。夕ぐれになると、何となく物悲しく、人恋しくなるものですから、“したわしい”気持を、“夕ぐれの心”で表現したものです。慕情。愛慕。追慕。

募は、“夕ぐれの力つとめ”という意味の字。夕ぐれになると放牧の家畜を呼び集めるのが仕事です。“呼び集める”こと。募集。今の入学試験のように、集めようとして苦労しないでも向こうから集まってくるのはほんとは“募”とは言えませんね。

摸は、夕ぐれになり、物が見えないというので、手さぐりすることで、“手でさぐる”のが本義。暗中摸索。

手で物をさぐる時は、手の感触から、その物の形ありさまを心の中にえがきます。それで、“同じものを心の中にえがく”ことを摸と言うようになりました。「摸倣」は、実物と一々ひき比べながら、それと同じものを作り出すことです。“まねる”こと。「摸写」

模は、同一の物をたくさん作る時の“木で作ったかた”。木と摸の意味の莫との合字です。ついでに言いますと、“土で作ったかた”は「型」、「竹で作ったかた」は「範」と言います。模と型と合わせて「模型」というのは“いろいろなかた”という意味です。模と範の「模範」は“手本”という意味に使われます。

幕は、莫と巾(ぬの)の会意形声字。“日ぐれのようにあたりを暗くする布”の意味で「まく」を表わしました。軍人(武士)は幕を張ってこ

れに宿営することが多いので、軍政のことを「幕政」と言い、その役所を「幕府」と言います。

漠は、草原の果てもなく広い意味の莫と水との会意形声字。“広々とした海原”が本義ですが、「沙漠」というように、見渡す限り何もないう砂原の意味にも使います。

「漠然」は、“とりとめもない”ことから“ぼんやり”という意味に使います。

驀は、道が暗くではっきりしない(莫)の^マにがむしゃらに馬を走らせること。驀進。まっしぐら。

獏、豸は“むじなへん”と言い、四つ足の勤物の象形です。獏は、実在しない、想像上の勤物ですので“とりとめもない”という意味の^{バク}莫と名付けたものでしょう。

人の悪い夢を食べて邪気を払ってくれるという霊獣だということです。

膜は、^{まく}幕の“物を隔て”たり“物を囲っ”たりする意味の莫と肉体の一部であることを示す月との会意形声字。横隔膜。腹膜。肋膜。鼓膜。網膜。粘膜。角膜。結膜。